

社会福祉法人 平成会

障害者支援施設 いちいの杜ハートフル

私たちの施設は 一人ひとりを大切にしています

職員採用案内

社会福祉法人平成会事業

○岐阜県関市下有知 5367 番地の 4 特別養護老人ホーム ハートフル ハートフルショートステイ ハートフルデイサービスセンター グループホームハートフル ハートフル居宅介護支援事業所	定員 70 名 20 名 40 名 9 名	○東京都千代田区二番町 7 番地 6 特別養護老人ホーム ザ番町ハウス ショートステイ 番町グループホーム	定員 108 名 12 名 18 名
○岐阜県関市市平賀大知洞 566 番地 1 障害者支援施設 いちいの杜ハートフル いちいの杜ハートフルショートステイ レインボーハートフル生活介護事業所 いちいの杜ハートフルデイサービスセンター 平成会福祉用具事業所	40 名 8 名 20 名 30 名		

ハートフル基本理念

福祉の原点はサービスである。サービスに徹する。

ハートフル基本方針

○個別のサービス

利用者の尊厳、人権を尊重し個別サービスを基本とし、ノーマライゼーションの理念のもとに生きがいを持ち、健全で安らかな生活を過ごせるよう、また、できるだけ自由な生活ができるようサービスする。

○職員の自覚

職員は「利用者と職員が共々に幸せ」を目標に、社会福祉事業従事者としての自覚と誇りを持ってサービスにあたり、業務を通じて知識、技術の向上に努め自らの人格形成をはかる。

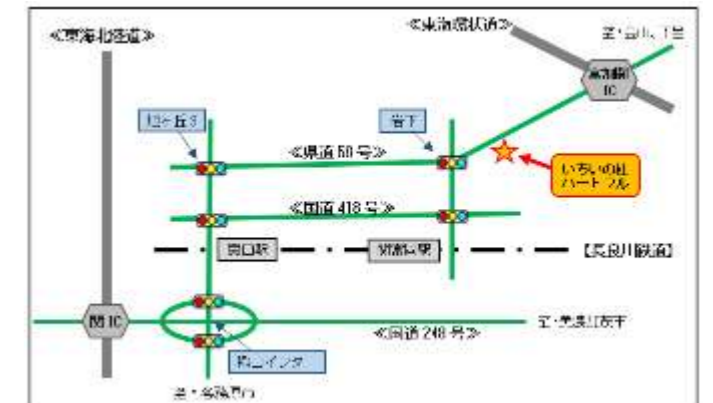
障害者支援施設 いちいの杜ハートフル



〒501-3822
岐阜県関市市平賀大知洞 566 番地 1
Tel 0575-21-6600

詳しい情報はホームページをご覧ください。

平成会 関市 検索



交通アクセス

- 富加関 IC より 約 10 分
- 関 IC より(関・美濃加茂方面へ) 約 20 分
- 長良川鉄道「関富岡駅」より 徒歩 15 分

誰かの役に立ちたい

私たちの施設は、「誰かのために役に立ちたい」という職員一人ひとりの心を大切にしています。

それは、施設を利用してくださる人々はもちろん、一緒に働く仲間や自分の周りの人たちにも向けられた心です。

自分の周りの人が困っていたり、悩んでいたりにいたら、みんなで力を合わせて助ける。そんな行動が自然にできる施設を目指しています。

障害を持つ方々のサポート

いちいの杜ハートフルをご利用される人々は、身体に何らかの障害があり、食事をする、お風呂に入る、トイレに行く、パソコンをする、遊びに出かけるなど、皆さんが特別意識しなくてもできる日常の動作でも、苦労や困難を感じています。

私たちは、一人ひとりの状態や状況に合わせて介護技術や対人援助技術、補助具などのさまざまなツールを使って生活のお手伝いをします。

利用者さんの「笑顔」と「ありがとう」が私の原動力に



針間 伸子

学生時代に職場体験で介護施設に行ったとき、自分では「たいしたことはしていない」と感じるちょっとした私の行動に、利用者の方から笑顔で「ありがとう」と言ってもらえたことがとても嬉しく感じました。このことがきっかけで「人の役に立つ仕事がしたい」という思いになり介護職に就こうと決めました。

実際に施設で働いてみると、楽しいこと嬉しいことだけではなく「つらい」と感じることもあります。私は入社当時、仕事の覚えが悪く、「この仕事に向いていないのでは」と考えたこともあります。時にはご利用者さんからお叱りを受けることもあり、すごく悩んだ時期もありました。

しかし、ご利用者さんと関わる中で笑顔が見られたりすると楽しく、先輩職員の方にアドバイスをいただきながら仕事を続けることができました。

今ではさまざまな仕事を任せてもらえるようになり、自信を持つことができるようになりました。

いちいの杜ハートフルのすごいところチーム力だと私は思います



吉川 美鈴

私は、知的障害者の支援経験を活かし、いちいの杜に転職しました。いざ勤務をしてみると身体障害者の支援は少し違い、苦手意識を感じるころがありました。そんな私に先輩職員の丁寧な指導、アドバイス、励ましの言葉をいただき少しずつその苦手意識がなくなっていきました。

また、早く支援が終わり時間に余裕ができれば「これ、やっておいたから」とさりげなくフォローしていたり、体調が悪そうな職員がいれば「大丈夫？」と声をかけて業務を交代していたりする同僚の姿をよく見かけます。

もちろん支援においては、利用者様の事を第一に考えて、どうしたら快適な環境で生活できるか、どうしたら利用者様をお待たせさせないのか等、みんなで考え様々な工夫を行っています。

利用者様だけでなく、職員同士もお互いを気にかけて思いやりをもって行動しているところが、この職場はすごいなと感じています。

新人研修は全員で

新人の育成責任者は決めています、日々の指導は職員全員で行っています。

最初は誰もが未経験で不安を感じますが、心配はいりません。全員で支援しているので誰にでも相談でき、障害福祉を一から学ぶこともできます。

新人研修は、新人の「学びたい気持ち」と、先輩の「役に立ちたい気持ち」が交わり、お互いを高め合う機会となっています。

1ヶ月目

利用者の顔と名前を覚える
基本的な介護技術を学ぶ
日中の流れを知る

2ヶ月目

障害に合わせた個別の支援を学ぶ
朝と夜の流れを知る

3ヶ月目

指示を受けたことができるようになる
夜間の流れを知る



「うれしさ」「楽しさ」そして「やりがい」を感じる

本川 直樹 2021年入社

私は中学生のころから人の役に立つ仕事をしたいと思い、高校、大学と福祉を専攻し介護の道を選びました。最初は介護といえば高齢者というイメージを抱いていましたが、講義や実習等で学びを深めていくうちに障害の分野に興味を持ち今の施設に就職しました。

実際に働いてみると、上手いできないことが多くあり自信を無くし落ち込むこともありましたが、先輩職員の皆さんからアドバイスや指導をいただき、少しずつできることが増え自信を持つことができました。

また、ご利用者の皆様から「ありがとう」「前よりも上手くなったね」というお言葉や握手を求めていただいた時は、嬉しさや楽しさ、やりがいを感じ、「この仕事はいいな」と実感しました。

一人ひとりの学びを大切に

日々業務をしていると、「あれ?」「どうだったっけ?」と感じた疑問でもいつの間にかそれ自体を忘れてしまい、そのままになってしまうことがあります。また、「教えてもらったけど忘れてしまった」、「知っているつもりでも実は知らなかった」ということもあります。

いちいの杜ハートフルでは、内部研修を充実させることで職員一人ひとりの学びと福祉従事者としての土台作りを支援しています。

内部研修の充実ポイント!

ポイント
1

その時の課題や問題点を題材にテーマを決め研修を企画します。そのため、今、必要なこと、知りたいことがリアルタイムに学べます。

ポイント
2

講師は企画した職員(チーム)が務めます。そのため、気軽に質問できます。また、講師は企画することでその内容を深く学ぶことができ、スキルアップにつながります。

ポイント
3

研修は技術の向上だけでなく、自分たちの働く環境の改善につながる内容も含まれています。自分たちの考えやアイデアが、働きやすい環境に直結しています。



皆でこんな研修を企画しました

- ・視覚障害について学ぼう
- ・薬の取り扱い間違いを無くそう
- ・口腔ケアを一から学ぼう
- ・何が不適切ケアなのか知ろう
- ・5S活動で働きやすい職場を作ろう
- ・危険を予知して労災ゼロ

など



職員一人ひとりが支え合う文化

施設には、育児や親の介護をしている人、病気や怪我に悩んでいる人など様々な人が働いています。

当法人には、職員一人ひとりが支え合う文化が定着しており、みんなでそれぞれの出せる力を最大限に発揮できるように助け合っています。

一人の力はとても小さいですが、皆が協力し合うことで大きな力になっていきます。

家庭と仕事の両立は大変だけど、やっぱりこの仕事を続けたい。



小関 靖子

私は大学を卒業してからずっと、いちいの杜ハートフルで働いています。その間に結婚、2度の出産など様々な体験をしました。

結婚した当初、1年間ほど名古屋からの車通勤になり1時間以上の運転は体力的につらく大変でした。また、妊娠中はつわりがあったり、腰も痛かったりと、つらく感じることもありました。

育児休業復帰後は、子供が熱を出せば仕事を休まなくてはならず、他の職員に迷惑ばかりかけ、仕事・家事・育児をやっていく自信がなくなり「もう仕事を辞めたほうがいい」と考えたこともありました。

それでも今続けてこられているのは、家族の協力があつたのはもちろんですが、その都度上司に相談できる環境があり、勤務しやすいように考えてもらえたこと、一緒に働くメンバーが「お互い様だから」と快く受け入れてくれたこと、ご利用者の「ありがとう」というあたたかい言葉があるからだと思います。

仲間に頼ってばかりですが、私のできる事を頑張っています



小栗 翔子

病気で体調を崩したことで、それまでと同じ仕事をするのができなくなり、身体的にも精神的にもつらい時期がありました。この仕事が好きだったこともありショックが大きく、仕事ができない自分は「必要ない存在」と感じていました。

このまま仕事を続けていくことがつらくなり上司に相談したところ、「今の環境を変えてみてはどうか」と、入所部門と通所部門の兼務を提案されました。なぜか「やってみたい」との気持ちになり兼務することを決断しました。

実際に兼務を行ってみると、今までとは違う環境で少し気持ちがリセットされ、ちょっとだけ前向きに考えられることができました。

今もまだ、周りの人たちに頼ることに申し訳ないという気持ちがありますが、「今の自分にしかできない仕事」を探りながら行動しています。これからも、いろんな話ができる仲間や相談できる先輩・上司と一緒にこの仕事を続けていきたいです。